

研究発表会開催通知

(昭和 61 年 2 月 15 日～3 月 31 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
情 報 シ ス テ ム	2 月 18 日 (火)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	前号参照
オペレーティング・システム	2 月 21 日 (金)	9 : 30～16 : 30	京 大 会 館	同 上
マルチメディア通信と分散処理	2 月 27 日 (木)	10 : 30～18 : 00	K D D 研	同 上
日 本 語 文 書 処 理	3 月 5 日 (水)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	下記参照
知 識 工 学 と 人 工 知 能	3 月 10 日 (月)	9 : 30～17 : 00	同 上	同 上
記 号 処 理 合 同 プ ロ グ ラ ミ ン グ 言 語	3 月 10 日 (月)	10 : 00～16 : 50	理 研	同 上
デ ー タ ベ ー ス ・ シ ス テ ム	3 月 10 日 (月)	10 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上
コ ン プ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	3 月 10 日 (月)	10 : 35～17 : 00	同 上	同 上
計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	3 月 14 日 (金)	9 : 30～15 : 30	同 上	同 上
設 計 自 動 化	3 月 18 日 (火)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
数 値 解 析	3 月 20 日 (木)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
自 然 言 語 処 理	3 月 28 日 (金)	10 : 00～17 : 10	東 工 大	同 上
マ イ ク ロ コ ン プ ュ ー タ	3 月 下 旬	未 定	北 大	次号参照

◆ 第 5 回 日本語文書処理研究会

(発表件数：5 件)

(主査：山田尚勇，幹事：坂下善彦，首藤正道)

日 時 昭和 61 年 3 月 5 日 (水) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8，地下鉄：日比谷線 神谷町，浅草線 大門，三田線 御成門下車，国電：浜松町下車，バス：渋谷—東京タワー線 東京タワー，渋谷—東京駅 八重洲線 虎ノ門 5 丁目下車，Tel. 03 (434) 8211〕

議 題 (1) ワークステーションにおける電算機端末エミュレータの日本語入力処理
浅井政美 (富士ゼロックス)

〔概要〕 ワークステーションの日本語電算機端末エミュレータにおける日本語入力方式の概要とその問題点について述べる。

(2) オンライン手書文字認識の前処理に対する信号処理的手法の応用

相澤 正，中川正樹，高橋延匡 (農工大・工)

〔概要〕 前処理を信号処理の観点からとらえ，フィルタリング理論 可変サンプリング手法の応用結果について報告する。

(3) オンライン手書き文字認識におけるパターンプリミティブの情報理論的決定とその辞書生成 相澤 正，中川正樹，高橋延匡 (農工大・工)

〔概要〕 パタンプリミティブ・セットの情報理論的決定と，その抽出処理辞書の

生成方法について報告する。

- (4) サブパターンの導入による文字辞書の構造化

菰田千冬, 中川正樹, 高橋延匡 (農工大・工)

〔概要〕 サブパターンを導入し, 文字辞書を構造的に構成した, その結果と効果について報告する。

- (5) つづけ字によるストローク結合のオンライン手書き文字認識手法

沢井良一, 中川正樹, 高橋延匡 (農工大・工)

〔概要〕 つづけ字による任意のストローク結合を含む入力パターンのオンライン手書き文字認識手法について報告する。

◆ 第 45 回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数: 10 件)

(主査: 志村正道, 幹事: 石塚 満, 米澤明憲)

日 時 昭和 61 年 3 月 10 日 (月) 午前 9 時半～午後 5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 二次元図形のレイアウト問題を解く Prolog 型言語

加藤誠己, 藤森福夫 (上智大・理工)

〔概要〕 住宅の間取設計を行うエキスパート・システムにおいて螺旋状配置を用いた解探索の効率化手法について述べる。

- (2) 対象分野の基本知識に基づく例題学習

沼尾正行, 志村正道 (東工大・工)

〔概要〕 プログラム翻訳システムを例にとり, 例題の学習を対象分野の基本知識に基づいて行う方法を述べる。

- (3) 手続法表現言語 KRIP/L による特許法の記述

新田克己, 長尾順太郎, 水鳥哲也 (電総研)

〔概要〕 特許法の知識ベースを作成するための言語 KRIP/L を紹介し, 法律特有の現象の記述について述べる。

- (4) 日本語文による LISP 関数の自動生成

池谷幸喜, 重永 実 (山梨大・工)

〔概要〕 問題文を意味するネットワークで表現し, 変換規則をくり返し適用して, 自動的にプログラムに変換する。

- (5) 知識の構造化を重視した学習のモデル

赤間 清 (北大・文)

〔概要〕 知識の構造化や仮説生成などを人間の日常的な情報処理の必須の基礎とみなしたモデルについて述べる。

- (6) 文字列領域の統一化と一般化のアルゴリズム

赤間 清 (北大・文)

〔概要〕 文を扱う帰納的学習システムに必要な, 文字列領域に対する統一化と一般化のアルゴリズムについて述べる。

- (7) C-Prolog 上でのインタプリタとコンパイラの共存法について

碓崎賢一, 上原邦昭, 豊田順一 (阪大・産研)

〔概要〕 述語単位でインクリメンタルに機械語への翻訳が可能な, インコアコンパイラの実現手法について述べる。

- (8) Prolog と関係データベースとの結合システム DB-Prolog

今中 武, 上原邦昭, 河合和久, 豊田順一 (阪大・産研)

〔概要〕 DB-Prolog の実現方法、性能評価およびその応用としてのフレームの概念に基づく知識ベースについて述べる。

(9) プログラミング言語としての OPS5 戸沢義夫 (日本 IBM)

〔概要〕 OPS5 はパターンマッチングによる新しいプログラミングパラダイムを提供していると考えることができる。その場合の OPS5 のプログラミング能力と実行効率について論ずる。

(10) ニューラルネットワーク推論システム

梶原信樹, 辻 三郎 (阪大・基礎工)

〔概要〕 ニューロン状素子を使ったネットワーク構造で、制御、推論を行うシステムについて述べる。

◆ 第 38 回 記号処理研究会

◆ 第 5 回 プログラミング言語研究会

} 合同

(発表件数: 8 件)

SYM (主査: 和田英一, 幹事: 奥乃 博, 寺島元章, 元吉文男)

PL (主査: 島内剛一, 幹事: 石畑 清, 斉藤信男, 安村通晃)

日 時 昭和 61 年 3 月 10 日 (月) 午前 10 時~午後 4 時 50 分

会 場 理化学研究所 レーザー棟会議室

〔和光市広沢 2-1, 東武東上線と和光市下車, 徒歩 10 分. Tel. 0484 (62) 1111〕

議 題 (1) 日本語テキストにおけるパターンマッチング手法の比較と改善

尹 志熙, 高木利久, 牛島和夫 (九大・工)

〔概要〕 英文テキスト用として開発されたいくつかのパターンマッチングアルゴリズムを日本語テキストに適用する際の問題点, 効率, 改善, 実用性の比較について報告を行う。

(2) Ada における日本語テキスト処理パッケージの構築とその使用

松尾篤弥, 牛島和夫 (九大・工)

〔概要〕 1 バイト系と 2 バイト系との混在文字列を処理するパッケージを構築, 日本語文章の解析に使用した。パッケージ設計における各種の決定の経緯とその使用経験を述べる。

(3) 日本語次第書き言語《小朱唇》の設計思想 水谷静夫 (東女大・文理)

〔概要〕 自然言語を扱うのに便利で, かつ次第書きが日本語として読めるという点を重視して, 《小朱唇》を作った。設計方針を述べ, 実例を紹介する。

(4) TAO における日本語文字列処理

杉村利明, 奥乃 博, 竹内郁雄 (NTT 通研)

〔概要〕 Lisp マシン ELIS 上の言語 TAO における日本語文字列処理の概要および使用経験を報告する。

(5) 日本 DEC の AI 製品における日本語化について

前端的典, 川合 進 (日本 DEC)

〔概要〕 日本 DEC の AI 製品は OS の日本語処理機能を利用し, 日本語化を行っている。この利用方法と処理の限界について説明する。

(6) FORTRAN 日本語処理の JIS 原案 西村恕彦 (農工大・工)

〔概要〕 FORTRAN で日本語処理を行うために新しい文字型を導入する。現在作成中の JIS 原案を紹介する。

(7) Common Lisp への Object 指向機能導入の動向

石田 享 (NTT), 井田昌之, 内田智史 (青学大)

大久保清貴 (パナファコム), 岡本泰次 (富士通)

佐治信之 (日電), 湯浦克彦 (日立), 西田大治 (富士ゼロックス)

〔概要〕 米国 Common Lisp 委員会では, Common Lisp に Object 指向の言語機能を追加する方向で議論が続けている. 本報告では Common Loops を始めとするいくつかの提案とその背景, 討論経緯を紹介する.

(8) 項書換え言語 T について 井田哲雄 (理研), 外山芳人 (NTT 通研)

相場 亮 (慶大・理工)

〔概要〕 項書換えシステムの考え方に基づいて設計された言語 T について述べる.

* なお, 研究会終了後, 懇親会開催を予定しています.

◆ 第 52 回 データベース・システム研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 上林弥彦, 幹事: 石井義興, 鈴木健司, 三浦孝夫)

日 時 昭和 61 年 3 月 10 日 (月) 午前 10 時~午後 5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) マルチメディア DBMS における長大データ管理について

岸本義一, 長濱芳寛, 杉山 守 (NTT 通研)

〔概要〕 マルチメディア DBMS における図形画像情報等の長大データの管理法について述べる.

(2) 分散データベースの同時更新制御手法の動作特性

片桐雅二, 大附辰夫 (早大・理工)

〔概要〕 分散データベースの同時更新制御手法をいくつか取り上げ, その動作特性を計算機実験の結果をもとに検討する.

(3) 並行処理方式評価のための拡張性の高いシミュレーションプログラム

掛下哲郎, 上林弥彦 (九大・工)

〔概要〕 データベースの高能率化のために適用範囲の広い並行処理方式評価用シミュレーションプログラムを設計した.

(4) データベース設計における汎化の処理

丸山秀央, 穂鷹良介 (筑波大・社会工学)

〔概要〕 データベース設計法での汎化の処理をデータベースシステムでの具体的なデータ処理を併せ考えつつ考える.

(5) ネットワークデータベースにおける質問の複雑さのクラスについて

古川哲也, 上林弥彦 (九大・工)

〔概要〕 ネットワークデータベースにおいて巡航操作と対応付けて質問の複雑さのクラスを検討する.

(6) CAD 技術を応用した地図処理システム

佐藤隆宣, 有信俊郎 (三井造船)

〔概要〕 地下埋設物の管理を行う地図処理を CAD 技術によりシステム化したので報告する.

(7) マルチビットマップ表現によるコミットメント制御方式

小寺 誠, 横山恭子, 吉田 誠 (沖電気)

〔概要〕 マルチビットマップ演算を利用した2相コミットメント制御の実現方式, 及び当該方式の実システムへの適用例について記述する。

◆ 第41回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 8件)

(主査: 白井良明, 幹事: 木戸出正継, 松山隆司)

日 時 昭和61年3月10日(月) 午前10時35分~午後5時

会 場 機械振興会館 地下3階研修1号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) マイクロコンピュータによるネオコグニトロン型手書き数字認識システム

福島邦彦, 三宅 誠, 伊藤崇之, 河野隆志 (NHK 技研)

〔概要〕 ネオコグニトロン型手書き数字認識システムを, できるだけ高速に処理することを主眼にマイコン上で実現した。

(2) 半導体ウェハパターンのための実時間外観検査アルゴリズム

酒匂 裕, 衣田晴夫, 江尻正員 (日立 中研)

〔概要〕 半導体集積回路の外観検査の自動化を目的とし, 画像処理による欠陥抽出と欠陥致命性判定手法を開発した。

(3) 色知覚の3属性によるカラー画像の分割 富永昌治 (大阪電通大)

〔概要〕 カラー画像を色調, 明度, 彩度の色知覚の3属性を用いて, 均等な色領域に分割する手法について述べる。

(4) 無人走行車のためのモーションステレオ 築山俊史 (電総研)

〔概要〕 建物内の廊下を自律的に走行する車を想定し, この車の移動量を2枚のテレビ画像から求める方法を述べる。

(5) 南カリフォルニア大学でのビジョン研究と動画解析について

安本吉雄 (松下電産)

〔概要〕 1983.8~1985.8の間, 客員研究員として滞在した USC におけるコンピュータビジョン研究の紹介とともに, 正規化法による剛体の3次元運動のパラメータ抽出Bスプライン関数を用いたコーナ検出および曲線表現法を述べる。

(6) 三面図からの物体自動合成のための擬似ブール代数解法

佐々木康仁, 石川雅朗, 伊藤 潔, 鈴木誠道 (上智大・理工)

〔概要〕 三面図から物体を合成する際に生成された虚物体要素を含むサーフィスモデルを真にするために, その位相的情報を擬似ブール代数により定式化し, 解を得た。

(7) 外周境界・孔境界を区別した対境界追跡による流れ図の構成要素の分離

東 谷 易, 阿部圭一 (静岡大・工)

〔概要〕 外周境界・孔境界を区別した対境界追跡を用いて, 流れ図を構成する記号・流れ線・文字を分離する方法を示す。

(8) IEEE Workshop on CAPAIDM の報告

岡崎彰夫 (東芝総研), 永田元康 (大阪電通大)

後藤敏行, 原田裕明 (富士通研)

〔概要〕 1985年11月18日~20日に米国マイアミビーチで開かれた CAPAIDM '85 (Computer Architecture for Pattern Analysis and Image Database

Management) の参加報告を行う。

◆ 第 53 回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 飯塚 肇, 幹事: 大島一純, 坂村 健)

日 時 昭和 61 年 3 月 14 日 (金) 午前 9 時半～午後 3 時半

会 場 機械振興会館 6 階 66 号室 (所在地は前記参照)

議 題 特集: リアルタイムオペレーティングシステム ITRON

リアルタイムオペレーティングシステム ITRON のアーキテクチャ, 各種マイクロプロセッサでのインプリメンテーション, 今後の展開についてまとめて報告する。

(1) ITRON リアルタイムオペレーティングシステム—アーキテクチャと今後の展望— 坂村 健 (東大・理)

〔概要〕 ITRON の TRON プロジェクトでの位置付け, ITRON のメモリ管理機構サポートの考え方, ITRON の 32 ビットマイクロプロセッサに対する考え方などを交え総括的な話をする。

(2) ITRON/68 K 矢部栄一 (日立)

〔概要〕 ITRON を 68000 系のマイクロプロセッサにインプリメントした事例について発表する。

(3) ITRON/286 下原 明 (富士通)

〔概要〕 メモリ保護機能, ハードウェアによるタスクスイッチなどを持つ 80286 用 ITRON の事例について発表する。

(4) ITRON/32000 坪田秀夫 (三菱電機)

〔概要〕 ITRON を 32000 シリーズマイクロプロセッサにインプリメントした事例について発表する。

(5) ITRON 32 ビット化へ向けて 門田 浩 (日電)

〔概要〕 V60 など 32 ビットマイクロプロセッサ用の ITRON についての検討点について発表する。

(6) ITRON の国際標準化について 榎木好明 (松下電産)

〔概要〕 ITRON の国際標準化について検討する。

(7) パネルディスカッション—ITRON から BTRON, TRON チップへ—

※ IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛

◆ 第 31 回 設計自動化研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 村井真一, 幹事: 池本康博, 向殿政男, 吉田憲司)

日 時 昭和 61 年 3 月 18 日 (火) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) MOS 論理回路のスイッチレベルシミュレータの開発

竹之上典昭, 古賀義亮 (防衛大・電気工学)

〔概要〕 順序回路を扱えるイベント駆動スイッチレベルシミュレータを開発したので報告する。

(2) 階層構造を用いたマスクデータ処理手法

小林裕一, 高島 誠, 小池三博 (東芝)

〔概要〕 LSI のレイアウトにおける階層構造を用いることにより, マスク作成処理を効率化する手法について報告する。

- (3) ハードウェアルータの一考察 緑川博子 (日電)
 [概要] LSI/PWB の配線設計への、専用ハードウェアエンジン適用について、性能、問題点等を報告する。
- (4) 力学モデルによるコンパクション 河西善夫, 藤重高志, 伊藤 誠 (山梨大・工)
 [概要] 力の概念を導入した力学モデルによりジョグ挿入や素子移動を自動で行うコンパクタを開発した。
- (5) International Test Conference 1985 報告 須藤常太 (NTT 通研)
 [概要] 1985 年 11 月米国フィラデルフィアで開催された上記国際会議の概要および、トピックスについて紹介する。

◆ 第 16 回 数値解析研究会

(発表件数: 3 件)

(主査: 一松 信, 幹事: 唐木幸比古, 名取 亮, 浜田穂積)

- 日 時 昭和 61 年 3 月 20 日 (木) 午後 1 時半～5 時
 会 場 機械振興会館 地下 3 階 9 号室 (所在地は前記参照)
 議 題 (1) 溶鋳炉に現れる自由境界問題に対する有限要素解析
 張 国 豊 (筑波大・電子・情報)
 [概要] 溶鋳炉の中のスラグと溶融した鉄の流れを自由境界問題として定式化し、有限要素法を適用して解析を行った。
- (2) 科学技術計算出力結果表示システムの開発
 大山恵三子, 金野千里, 矢島章夫 (日立 中研)
 [概要] 数値シミュレーション解析手法に適合した数値ファイルとそれからの多次元グラフ画像表示を特徴とする S-GRAF を開発した。
- (3) ベクトル計算機による回路行列の高速求解法
 鹿毛哲郎, 下郡慎太郎 (富士通研)
 [概要] スパース行列に対する LU 分解法において、すべての行列演算過程にわたってベクトル化する方法について述べる。

◆ 第 54 回 自然言語処理研究会

(発表件数: 9 件)

(主査: 吉田 将, 幹事: 榊 博史, 首藤公昭, 野村浩郷)

- 日 時 昭和 61 年 3 月 28 日 (金) 午前 10 時～午後 5 時 10 分
 会 場 東京工業大学 中棟 3 号館 527 号室
 [東京都目黒区大岡山 2-12-1, 目蒲線・大井町線: 大岡山下車。
 Tel. 03 (726) 1111]
 議 題 (1) 西ドイツにおける自然言語処理の現状
 一シュトゥットガルト大の研究を中心として 横山晶一 (電総研)
 [概要] 筆者が 1 年間滞在した西独シュトゥットガルト大の研究を中心に、西独における自然言語処理の概要を述べる。
- (2) 多変量解析によるキーワードの自動抽出と文献の自動分類
 竹内晴彦 (製品科学研), 岩坪秀一 (大学入試センター)
 西野博二 (筑波大)
 [概要] 英文文献中のキーワードを抽出するシステム、および判別分析による文

献の自動分類について述べる.

(3) 自然言語の分析による知識データ

田中康仁 (姫路短大), 吉田 将 (九大・工)

〔概要〕 4文字漢字列の分析とその拡大, その他の方法による知識データの収集等について研究成果を発表する.

(4) ポータビリティを目指した日本語インタフェースの試作

松島利幸, 小室 睦, 小野山隆, 小柳和子 (日立 SK)

〔概要〕 意味解析ルールを辞書に記述し, オブジェクト指向型手法で, 辞書作成の効率化と保守の向上をはかった.

(5) 意味記述用言語 SRL/O の設計と DCKR

奥村 学, 高倉 伸, 田中穂積 (東工大・工)

〔概要〕 DCKR 及びそれを応用した意味解析手法について述べるとともに, より高水準な意味記述用言語を設計したので報告する.

(6) 機械部品組立てマニュアル文理解の試み

石川智浩, 安部憲広, 辻 三郎 (阪大・基礎工)

〔概要〕 英文マニュアル中の組立て動作をシミュレートしながら正しい組立て手順を生成して, 理解したことを示す.

(7) タプル論理による日本語文の意味表現と, Syllogism (三段論法) に基づく推論法

森田憲一, 江村恵里子 (阪大・基礎工)

〔概要〕 述語論理とは異なる論理的枠組みによる日本語文の意味表現法と推論法の可能性を探り, 簡単な推論システムを試作した.

(8) 英語文章の大意生成

内海功朗, 重永 実 (山梨大・工)

〔概要〕 二文間の接続関係などを使って文脈を求め, 木構造の形で表現して, 英語文章 (高校入試程度) の大意を求めている.

(9) エスペラントを仲介言語とする機械翻訳

牧野 悟, 平田 満, 勝守 寛 (中部大・工)

〔概要〕 エスペラントを使うと, あいまいさが少ないため, 処理が簡単になり, 手軽に高品質の翻訳が可能である.

情報処理学会第 32 回 全国大会(昭和 61 年前期)参加について

期 日 昭和 61 年 3 月 11 日(火)～13 日(木)

会 場 学習院大学(豊島区目白)

プログラム 詳細は本号黄色のページに掲載してあります。交通、会場等はプログラム末尾の会場案内図を参照してください。

一般参加の方へ

1. 総 受 付 学習院大学南 3 号館 1 階ロビー
2. 参 加 費 会 員 1,000 円(賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます.)
非会員 2,000 円(ただし電気、電子通信、照明、テレビジョンの各学会会員は会員扱いとします。会員番号を申し出てください。)
3. 論 文 集 定 価 6,000 円(予約価 5,000 円)
2 月 21 日締切の予約を原則とします。12 月号綴込みの申込書をご利用ください。
(当日、予約者以外にお頒けできるのは、残部のある場合に限りです。)

◎ 参加される方は、総受付にて参加費を納め、参加章を受けとってください。参加章のない方は会場に入れません。

一般講演を行う方へ

1. 講演者は、講演の始まる前に、必ず各セッション会場前の講演者受付で、出席の確認を受けてください。
2. 講演者は、おそくとも前の講演者の講演時間中には、座長席の前に設けられた「講演者控」で待機するようにしてください。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて、15 分を原則とします(都合により 13 分のセッションもあります)。講演中でも時間がくれば打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の 5 分前および 3 分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代読は認めません。
6. 説明用の掛図(3 枚以内)は、各自で黒板に止めてください。

学術奨励賞の表彰

大会初日の 11 日(火)に特別講演終了後、これに引続き行います。受賞者は本会記事を参照ください。

その他の一般注意

1. 食堂：学生食堂、休憩室：西 4 号館 3 階 302 番教室(プログラムの会場案内図参照)。
2. 電話の呼び出しはいたしません(万一止むを得ない場合のみ、伝言板に掲示)。
3. 駐車場がないので、自家用車による参加はできません。

役職名	候補者氏名	出身学校 卒業年次(昭和)	勤務先および役職名
理事 (編集担当)	(教育／研究) 片山卓也 田中英彦 鳥居宏次 廣瀬健	東工大 37 東大 40 阪大 37 立教大 36	東京工業大学工学部教授 東京大学工学部助教授 大阪大学基礎工学部教授 早稲田大学理工学部教授
	(分野不問) 上原貴夫 高根宏士 立花佑介 三浦大亮	早大 40 東北大 37 東工大 37 東大 32	富士通研究所システム研究部長 三菱電機東部コンピュータシステム取締役 コントロールシステム第一部長 NTTデータ通信事業本部産業システム事業部長 東レエンジニアリング機器事業本部企画管理部長
監事	池野信一	東大 24	電気通信大学電気通信学部教授
	石井治	慶大 27	日本工業大学工学部教授 情報技術センター長

(五十音順)

〔参 考〕

昭和 61 年度 留任役員名簿

退任役員名簿

役職名	氏名	勤務先
会長	尾関雅則	日立
副会長	松尾士郎	N T T
理事	新井克彦	N T T 研
理事	木村泉	東工大
理事	小林亮	日電
理事	島崎恭一	日本情報通信
理事	関栄四郎	国鉄
理事	中田育男	筑波大
理事	堀越彌	日立
理事	山田郁夫	三菱
監事	高島堅助	阪大

役職名	氏名	勤務先
副会長	榎本肇	富士通
理事	澤田正方	永楽電気
理事	澁谷多喜夫	N T T
理事	関弘	日立
理事	鶴田清治	日本IBM
理事	棟上昭男	電総研
理事	富永英義	早大
理事	中島正志	三菱中部CS
理事	福村晃夫	名大
理事	三上徹	日電
監事	石井康雄	富士通研

「プロトタイピングと要求定義」シンポジウム開催のお知らせ

標記シンポジウムに関して、多数の論文をご応募頂き誠に有難うございました。論文審査の結果、下記要領でシンポジウムを開催致しますので、多数の方々のご参加をお願いいたします。

記

日 時 昭和 61 年 4 月 16 日(水), 17 日(木) 9:00~17:00
場 所 機械振興会館大ホール(地下 2 階)
参 加 費 会員 10,000 円(非会員 15,000 円) 学生会員 5,000 円
(論文集のみ 3,000 円, 送料 300 円)
申込締切 昭和 61 年 4 月 1 日(火)(定員 150 名になり次第, 締切ります)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

第 1 日(4 月 16 日)

招待講演(9:00~10:00)

- ライフサイクルモデルとプロトタイピングの両立性 阿草 清滋・大野 豊(京大)
——休憩(10 分)——

セッション 1(10:10~11:55)

座長 永田 守男(慶大)

- 知識工学手法によるソフトウェア・プロトタイピング
本位田真一・内平 直志・末田 直道(東芝)
- 要求モデルに基づいた要求定義支援手法 大西 淳・阿草 清滋・大野 豊(京大)
- プロトタイピング技法の形式化の試み——代数的プログラムの抽象実行を用いる方法——
岡田 康治・二木 厚吉(電総研)
——昼食(50 分)——

セッション 2(12:45~14:30)

座長 紫合 治(日電)

- 並行/並列/分散処理ソフトウェア設計時のプロトタイピング手法
伊藤 潔・田村 恭久(上智大)
- 要求記述モデル DRAMA に基づいた実行可能仕様記述方式 宮下 洋一(IPA)
- JSD (Jackson System Development) 仕様の実行系の試作 加藤 潤三(日本ユニパック)
——休憩(10 分)——

セッション 3(14:40~17:00)

座長 杉田 義明(SRA)

- 理容店向け専用パッケージの要求定義実践例 生田目康子(日本コンピュータ研究所)
- 大規模事務処理システムにおけるプロトタイピング 坂内 広蔵・寺野 隆雄(電力中研)
- 第四世代言語 NATURAL を用いたプロトタイピング方式のシステム開発の事例
末舛 史郎・羽城 修・吉鋪 紀子(ソフトウェア・エージー)
- 新電話サービス開発におけるプロトタイピング手法の一検討
新津 善弘・伊藤 弘(NTT)

第 2 日(4 月 17 日)

招待講演(9:00~10:00)

- 要求定義とプロトタイピングの現状 玉井 哲雄(三菱総研)
——休憩(10 分)——

セッション 4(10:10~11:55)

座長 杉藤 芳雄(電総研)

- 日本語による仕様記述からのライブラリモジュール援用プログラムの半自動生成
西田富士夫・藤田 米春・高松 忍(大阪府立大)

- 例題によるソフトウェアのプロトタイプ自動合成システム
中島 英樹・西田 豊明・堂下 修司 (京 大)
 - 知識工学的手法を応用した自然言語からの自動プログラム合成システム
藤井 邦和・上原 邦昭・豊田 順一 (阪 大)
- 昼 食 (65 分) ——

- セッション 5 (13:00~14:45)
- 概念モデルに基づくソフトウェア要求定義技法
座長 春原 猛 (三 菱)
片岡 雅憲・原田 千秋 (日 立)
 - 仕様記述技法へのインフォーマルなアプローチ
岩田 成康 (SRA)
 - システム計画支援ツール——ビジュアルインターフェースのプロトタイピング——
笠原 裕・宮内 宏・宮下 敏昭・市川 洋・野村 豊・大竹 康夫 (日 電)
- 休 憩 (15 分) ——

- パネル討論 (15:00~17:00)
- 要求技術の目指すべき方向
司会 松本 吉弘 (東 芝)
パネリスト 野木 兼六 (日立), 阿草 清滋 (京 大), 森沢 好臣 (日本ユニパック)

.....き り と り.....

「プロトタイピングと要求定義」シンポジウム 参 加 申 込 書

昭和 61 年 月 日
申込者 氏名 _____ 会員 No. _____
連絡先 (住所, 会社名, 所属) 〒 _____ Tel. _____

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

- 参 加 費 (該当するものを○印でかこむ)
正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 5,000 円
- 論文集のみ (3,000 円, 送料 300 円) 冊
- 送 金 方 法
_____ 円を _____ 月 _____ 日送金します (金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)。

- a. 現金書留
- b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945	富士銀行虎ノ門支店 993632
三菱銀行虎ノ門支店 0000608	三井銀行本店 4298739
住友銀行虎ノ門支店 10899	三和銀行虎ノ門東京公務部 21409
名義人 東京都港区芝公園 3-5-8 社団法人 情報処理学会	

請求書類の必要な方はお申出ください。

請求書 _____ 通, 見積書 _____ 通, 納品書 _____ 通 (No. _____)
請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人として下さい (この用紙のコピーで可)。

「アドバンスト・データベース・システム」シンポジウム論文募集

データベースシステムは科学、工学のあらゆる分野において、エンジニアリング、研究開発あるいは意志決定の主要なツールとして、高度な利用が志向されている。

本シンポジウムでは、データベースに関連する基礎的な問題から応用事例に至るまでの先鋭的論文を募集し、今後の発展の方向と共通する問題点を討論する場としたい。特に、今年度は、京都で開催される VLDB (巨大データベース) 国際会議に引き続いて行うことにより、国際交流を深める場としたい。

日 時 昭和 61 年 8 月 29 日(金), 30 日(土)

場 所 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

トピックス データベース工学の理論, 技術, 高度応用などの分野における研究, 開発に関するもの

- ・理論技法: データモデル, 知識ベース, 並行処理, 分散データベース, マルチメディアデータベース, データベースマシン, エンドユーザインタフェース, データベース設計, データディクショナリなど
- ・高度応用: OA, CAD, DSS, 統計, 診断など

実施方法

- (1) 発表論文については審査制とする。
- (2) 応募論文はアブストラクトを含め, 英文 5,000 語までとする。なお, 邦文アブストラクトを付けること。
- (3) 発表は, 29 日は日本語, 30 日は英語による発表とする予定。日本人の参加者に対して, 興味のあるテーマについてサーベイ, 招待講演を行う。
- (4) スケジュールは次の通りとする。
 - 論文締切 5 月 7 日(水)
 - 採用決定 5 月末
 - 最終論文 7 月 25 日(金)
- (5) 応募論文はコピー 3 部を下記申込先へ送付のこと。

申 込 先 (社)情報処理学会 データベースシンポジウム係 Tel. 03 (431) 2808

VLDB 国際会議の関連日程

8 月 21 日～22 日: Pre-VLDB Symposium (北京)

8 月 25 日 : VLDB チュートリアル (京都)

8 月 26 日～28 日: VLDB 本会議 (京都)

昭和 61 年度会費および論文誌・欧文誌購読費の納入について

前号本欄でお知らせしたとおり、昭和 61 年度会費および購読費の納付書（郵便振替用紙）を 1 月下旬に発送いたしましたので、納入かたよろしくお願い申し上げます。（会費、購読費は 60 年度と同じで据置き。）

会 費 正会員 7,200 円 学生会員 3,000 円（大学院修士課程まで）

購読費 論文誌 4,500 円 欧 文 誌 3,000 円

申すまでもありませんが、会費は前納を建て前としておりますので、3 月末までに率先してご納入いただきたく存じます。

また、「論文誌」（本年より月刊）および「欧文誌」（季刊）は有料頒布となっていますので、新規購読希望の方はその旨振替用紙通信欄にご記入下さい。

科学技術庁編「知識ベース・システム」発行について

——総合レビュー 科学技術情報活動の現状と展望 第 8 巻——

本書は科学技術庁からの委託により、本学会内に「知識ベース・システム」編集委員会（委員長 大須賀節雄）を設け、調査・執筆したものです。

主なる内容は、知識ベースの基本的概念や知識ベース・システムを構築するための基本的要素技術、知識ベース・システム開発のための開発支援環境について述べ、また、パターン理解、自然言語処理、エキスパート・システム等の知識情報処理の現状を広範囲に展望し、さらに将来の動向が示されている。

なお、本書は政府刊行物サービス・センター、官報販売所または主要書店にて購入ください。

定価 1,400 円 送料 250 円（事務局に若干用意しましたのでお問合せください）。

本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内*

第 3 回 セミナーキャンプ「エキスパートシステム構築法」

昭和 61 年 6 月 5 日（木）～6 日（金） 大磯アカデミーハウス

第 1 回 産業における画像処理センシング技術シンポジウム

昭和 61 年 6 月 19 日（木）～20 日（金） 日本大学会館

The Logic Programming Conference '86

昭和 61 年 6 月 23 日（月）～26 日（木） 建築会館ホール

* 詳細は本号会議案内欄参照

支 部 だ よ り

関 西 支 部

セ ミ ナ ー 開 催 に つ い て

——最近のプログラム言語の動向——

最近のプログラム言語に関する話題のなかから、プログラム言語 Ada と AI システム開発用プログラム言語を中心に、その動向や適用事例を解説するセミナーを開催いたします。多数の方々のご参加をお願いいたします。

期 日 昭和 61 年 2 月 20 日 (木)～21 日 (金) 10 : 00～17 : 00
会 場 (財)関西情報センター会議室
参 加 費 会員 16,000 円 (学生 8,000 円), 非会員 20,000 円
申込方法 「はがき」に「支部セミナー申込み」と書き, ①勤務先, ②部課, 役職, ③氏名, ④住所 (Tel.) を記入して下記までお申し込みください。
申 込 先 〒530 大阪市北区中之島 5-3-51 大阪国際貿易センタービル 4 F
(財)関西情報センター気付 情報処理学会関西支部 Tel. 06 (448) 6630 (直)
プログラム 前号本欄参照

中 部 支 部

講 演 会

期 日 昭和 61 年 2 月 25 日 (火) 13 : 30～15 : 30
会 場 中部電力(株)本店 1-1 会議室
演 題 新エネルギーの開発動向 堀越 正勝 (中部電力)
参 加 費 無料 (参加資格は問いません)。
問合せ先 名古屋大学工学部 情報工学教室内 情報処理学会中部支部
Tel. 052 (781) 5111 (内 5803)

欧文誌の原稿募集について

本学会欧文誌“Journal of Information Processing”に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

(1) 70 ページ×4 回/年=280 ページ, A 4 判

(2) 純学術研究発表誌とし, Paper と Short Note を募集する。

(i) Paper (原則として刷上り 8 ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき, 欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note (2 ページ以内に限り)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて, 採録を認められた欧文による小論文

3. 「情報処理」との関連

Paper と Short Note の和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙は A 4 判 (21 cm×30 cm) の白紙を使い, 1 行 65 ストローク, ダブルスペースで上下 3 cm (強) の余白を残し, パラグラフは初めを 5~6 字分あける。この様式で原稿をタイプした場合 (図表なしで) 24 枚で, 欧文誌刷上り 8 ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体, 数式中の記号は (イタリック) となる。

(2) 査読の都合上, タイトル, 氏名, 所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paper のアブストラクト——200 語以内

(ii) Short Note のアブストラクト——50 語以内

(3) 図表 (写真を含む) は, 完成図 (そのまま縮小製版できるもので, 縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお, 文字は縮版のさいも読める大きさに書く。) を本文と別にし, 説明文は別紙にまとめてタイプし, 本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

(1) コピー 4 部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

6. 別刷料

下記の通り別刷 100 部を印刷実費の一部として, ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000